

EUSI メールマガジン Vol. 097 「ビジョンの安全保障政策」(小林正英)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 079】

「ビジョンの安全保障政策」

小林正英 (尚美学園大学総合政策学部准教授)

2016年6月28日火曜日、その数日前に実施された英EU離脱国民投票の余波で日程が圧縮された(二日目を27カ国による非公式会合にあてることとなった)注目の欧州理事会で、13年ぶりに改定されたEUとしての安全保障戦略文書が、フェデリカ・モゲリーニEU共通外交・安全保障政策(CFSP)上級代表兼欧州委員会副委員長によって(結果的に)ひっそりと提出された。

「共有されたビジョン、共通の行動: より強い欧州 - EUの外交・安全保障政策のためのグローバル戦略 (Shared Vision, Common Action: Stronger Europe - A Global Strategy for the European Union's Foreign and Security Policy)」と題された新戦略(以下「グローバル戦略」と略)を一瞥して気づくことは、まず文章量が増えたことと、タイトルが変わったことである。実は、これはあながち表面的なことではない。

2003年にハビエル・ソラーナCFSP上級代表兼欧州理事会事務総長の下で作成された、EUとしての初めての安全保障戦略文書「よりよい世界における安全な欧州 - 欧州安全保障戦略 (A Secure Europe in a Better World - European Security Strategy)」が15ページほどの文書であったのに対し、今回のグローバル戦略は60ページほどとなっている。他方で、2003年版では「欧州の」戦略と大見得を切っていたものが、今回は「EUの」、しかも外交・安全保障政策の戦略と堅実路線をとっている。

これは、敢えて長々しいのを隠さずに書いた、上級代表の肩書の違いから生じているものと考えられる。すなわち、2009年に発効したリスボン条約により、CFSP上級代表は欧州委員会の対外関係を担当する副委員長を兼任することとなり、2003年の時点では分立していたEUの対外関係の両面を所掌することになったことの影響である。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol79.pdf>

【EUSI イベントご案内】

1. ジャン・モネ EU 研究センター(慶應義塾大学)より以下ご案内が届いています
第84回慶應EU研究会

日時: 2016年7月30日(土) 15:45-18:45
場所: 慶應義塾大学三田キャンパス南館4階会議室
参加: 無料・事前登録不要 (どなたでも参加できます)

"EU Criminal Law and Accession Process: Selected Case Studies in ex-Yugoslavian Countries"
(EU 刑事法と加盟プロセス 旧ユーゴ諸国における事例)
森口琴巳 (ゲント大学/ブリュッセル自由大学法学犯罪学研究科博士後期課程)

「EU 法の一般原則の機能」
佐藤智恵 (明治大学法学部)

「イギリスの民事裁判 EU 法、欧州人権条約の影響を中心に」
松嶋隆弘 (日本大学総合科学研究所教授・弁護士(みなと協和法律事務所))

2. 公益財団法人大学セミナーハウスより下記セミナーのご案内が届いています
第5回 EU セミナー「EU の新たな試練 英国の EU 離脱後のヨーロッパ」

日時: 2016年9月23日(金)-25日(日) (2泊3日)
会場: 大学セミナーハウス (東京都八王子市下袖木 1987-1)

特別講演「EU の今後」(仮題)
駐日欧州連合代表部 公使/副代表 (予定)

第1分科会「EU 経済と連帯」
田中素香 (中央大学経済研究所客員研究員)
太田瑞希子 (亜細亜大学国際関係学部准教授)

第2分科会「EU の域内格差と地域政策」
蓮見雄 (立正大学経済学部教授)

第3分科会「EU の移民・難民 シェンゲン圏と法」
中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授、EUSI 所長)

第4分科会「EU 市民社会の連帯とリスク」
福田耕治 (早稲田大学政治経済学術院教授、日本 EU 学会理事長)
押村高 (青山学院大学国際政治経済学部教授)

第5分科会「テロと排外主義」
渡邊啓貴 (東京外国語大学国際関係所所長・教授、EU セミナー企画委員長)
小久保康之 (東洋英和女学院大学国際社会学部教授)

主催: 公益財団法人 大学セミナーハウス
後援: 駐日欧州連合代表部
募集対象・人員: 大学生・大学院生・社会人 (先着順・合計80名まで)
参加希望: 以下 HP 上の申込フォームにてお申込み下さい (締切・9月15日)
<https://iush.jp/seminar/2016/07/141/>

【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】
細谷雄一 (慶應義塾大学法学部教授、EUSI 執行委員)

『イギリスとアメリカ 世界秩序を築いた四百年』(君塚直隆、永野隆行と共編)
 (勁草書房、2016年7月15日刊行)
<http://www.keisoshobo.co.jp/book/b238541.html>

【EUに関するニュース】

- 2016年7月1日 スロヴァキア、2016年下期 EU 議長国就任。同国 2004年 EU 加盟以来初の議長国
- 2016年7月1日 EU 理事会、金融・エネルギー・軍民両用製造業含めた対ロ制裁措置の6カ月延長を決定
- 2016年7月1日 中東カルテット(EU・UN・米・ロ)、イスラエル・パレスチナ情勢の脅威に関する報告書
- 2016年7月1日 ダッカでテロ、日本人7名含む22名殺害。翌日モゲリーニ上級代表、哀悼と連帯の声明
- 2016年7月2日 ロンドン中心部で英 EU 離脱抗議のデモ行進「March for Europe」開催。4万人参加
- 2016年7月3日 イスラエル、東エルサレムなどに数百名の新規居住決定。EU 報道官、同国に懸念の声明
- 2016年7月4日 西バルカン諸国首脳会談、パリで開催。難民やテロ対策・貿易・青少年交流など協議
- 2016年7月4日 ECB、6月資産購入額は851億ユーロで月額800億目標突破。6月時点保有総額1.8兆ユーロ
- 2016年7月4日 オズボーン英財務相、英 FT 紙談話で英 EU 離脱影響緩和のため法人税15%へ引下げ提案
- 2016年7月4日 ファラージ英独立党(UKIP)党首、党首辞任表明。欧州議員の職務は継続
- 2016年7月5日 欧州委員会、テロ資金・租税回避・資金洗浄対策のため透明性規則を強化する提案
- 2016年7月5日 EU、パートナー諸国の治安部門支援を通じた安定と平和に資する措置(IcSP)拡大を提案
- 2016年7月5日 ECB、新50ユーロ紙幣を発表。偽造防止の新ユーロ紙幣「エウロペ」シリーズの第4弾
- 2016年7月5日 英 YouGov/CEBR 調査、英企業信頼感や楽観指標など各種指標が国民投票前より大幅低下
- 2016年7月5日 英保守党党首選第1回投票(5名)、フォックス元国防相敗退、クラブ雇用・年金相も撤退
- 2016年7月6日 欧州議会、EU ネットワーク情報セキュリティ(NIS)指令を可決。EU 共通の IT 安全性強化
- 2016年7月6日 欧州議会、欧州国境沿岸警備機関(EBCG)設立可決。EU 加盟国と共に難民帰還や即応対処
- 2016年7月6日 仏首相、外国人優遇税制や外国企業の事業拠点申請の迅速処理へ、欧州拠点誘致目指す
- 2016年7月6日 ハンガリー、EU による加盟国難民受入枠の是非問う国民投票を10月2日に実施と発表
- 2016年7月7日 欧州委員会、スペインとポルトガルが財政健全化目標未達成とする勧告。目標再設定へ
- 2016年7月7日 ECB、6月理事会議事要旨公開。英 EU 離脱による影響や資産購入対象の将来的不足等協議
- 2016年7月7日 EU 理事会、パレスチナ EU 警察ミッションと国境管理支援ミッションの1年派遣延長決定
- 2016年7月7日 モゲリーニ上級代表、地中海連合(UfM)事務総長と第2回地中海連合フォーラム等を協議
- 2016年7月7日 英保守党党首選第2回投票(3名)、ゴブ司法相敗退。メイとレッドサム両女史決選投票へ
- 2016年7月8日 モゲリーニ上級代表、7月1日の中東カルテット報告書を歓迎、中東和平支援を謳う声明
- 2016年7月8-9日 NATO 首脳会合、ワルシャワで開催。8日、初の EU・NATO 共同宣言締結、安保協力強化
- 2016年7月9-10日 G20 貿易相会合、上海で開催。英 EU 離脱や保護主義や中国の過剰生産問題など協議
- 2016年7月10日 モゲリーニ上級代表ら、南スーダンでの紛争激化に対し当事者らの和平回復求む声明
- 2016年7月11日 ユーログループ(ユーロ圏財務相会合)、英国民投票後の経済状況や財政健全化等協議
- 2016年7月11日 モゲリーニ上級代表ら、スレブレニツァ虐殺21周年に寄せてボスニア改革支援等声明
- 2016年7月11日 欧州委員会、英出身ヒル欧州委員の後任として英政府推挙のキング駐仏英大使を承認
- 2016年7月11日 レッドサム英エネルギー相、英保守党党首選より撤退表明。メイ内相、保守党党首へ
- 2016年7月12日 EU 経済・財務理事会、スペインとポルトガルが財政健全化目標未達成、両国に制裁へ
- 2016年7月12日 ハーグの常設仲裁裁判所、中国の南シナ海での領土的主張否定する裁定。中国猛反発
- 2016年7月12-13日 第18回 EU・中国定期首脳協議、北京で開催。幅広く協議行っも、共同声明出さず
- 2016年7月13日 欧州委員会、欧州共通庇護制度改革のため共通手続・基準・受入条件等の包括的提案
- 2016年7月13日 欧州委員会、EU 再定住新枠組を提案。再定住のための共通手続や EU 域内計画調整など
- 2016年7月13日 メイ英首相就任、サッチャー以来26年ぶりの女性首相。EU 離脱派ジョンソンが外相
- 2016年7月14日 南仏ニュースでテロ事件、84名犠牲。翌日 ASEM 首脳ら、国際テロリズムに関する声明
- 2016年7月14日 モゲリーニ上級代表、イラン核合意(JCPOA)1周年を歓迎、IAEA との協力求める声明
- 2016年7月14日 欧州委員会、EU 加盟各国のイノベーション能力に関する2016年調査結果発表
- 2016年7月14日 欧州委員会、米 Google 社へ商品比較サービスと検索広告制限に関する異議告知書送付
- 2016年7月14-15日 ドムブロフスキス欧州副委員長来日、日銀総裁・財務相・経済再生担当相らと会談

2016年7月14-16日 第11回 ASEM 首脳会合、ウランバートルで開催。将来の共通目標や連結性強化等協議
 2016年7月15日 日・EU 首脳会談、ASEM 首脳会合会期中に開催。英 EU 離脱や日・EU EPA 交渉など協議
 2016年7月15日 モグリーニ上級代表、常設仲裁裁判所の南シナ海裁定認め、平和的紛争解決求める声明
 2016年7月15日 トルコでクーデター発生するも失敗。翌日上級代表らクーデター非難と秩序求める声明

【編集後記】

先日、E テレで日曜日の午前に放送されている NHK 杯テレビ将棋トーナメントを見ていたら、珍しく女性棋士が出場していました。

将棋の世界では女性棋士の実力は男性棋士のそれよりはだいぶ低く見られていて、通常の対局も原則として女性同士で行い、タイトルも女性限定のものが作られています。その日に出場していた加藤桃子「女流王将」は女性棋士の中ではトップクラスですが、羽生善治三冠を頂点とする一般棋士の世界ではまだ初段程度の扱いであり、正式のプロ棋士とは認められていません。したがって、今回も特別枠をもらっての出場でした。男性の六段を相手に善戦しましたが、敗れ去りました。まだ若いので将来が期待できますし、彼女に続く女性棋士の層もずいぶん厚くなっています。しかし、よく考えてみると、このような男女の対局ということ自体が昔では全く考えられなかったことですし、もっと視野を広げて見れば、多くの分野で今さら男女の違いをうんぬんすることの方が珍しくなっています。

こうした傾向は政治の世界でもはっきりと見てとることができます。EU からの離脱を決めた英国は、新しい首相に女性を選びました。彼女と最後まで首相の座を争ったのも女性でした。早速メイ新首相は離脱問題についてドイツのメルケル首相と協議を行いました。ご存知のようにメルケル首相も女性です。メイ首相が「氷の女王」と呼ばれているのに対して、メルケル首相も既に 10 年以上の長きにわたってドイツ首相の座にあり、EU における最強のリーダーと言われています。

今後、この二人の政治家によって難しい外交交渉が展開されていくことが予想されます。外交は妥協の芸術だと言われます。同様に政治も妥協の芸術だと言われています。過去の欧州統合の歩みを見ても、何度か訪れた危機的状況の克服のために、加盟国間で芸術的な妥協が行われてきました。そして、その多くの場合に英国が関係をしていました。この二人の女性政治家によるこれからの芸術的な交渉を注目したいものです。

(藤川哲史・EUSI メールマガジン編集担当)

20 世紀最高のチェロ演奏家として名高いパウ・カザルスは、1936 年 7 月 17 日、ナチスによるベルリンオリンピックに対抗するために翌日よりバルセロナで予定されていた人民オリンピックの開会式の最後のリハーサルを行っていました——ところがこの人民オリンピックは、翌日より勃発したスペイン内戦によって、開かれることなく終わることとなります。

今年 18 日はそのスペイン内戦勃発 80 周年に当たり、バルセロナのカタルーニャ音楽堂ではカザルスが予定していた演目を含め、カタルーニャ自治政府によるスペイン内戦 80 周年記念式典が行われました。

よく知られているように、1936 年のスペイン内戦は、その後 40 年近くにわたるフランコ独裁体制を確立するのみならず、ナチスドイツ及びイタリアなどのファシズム勢力やソ連など反ファシズム勢力の参戦を招き、のちの第二次世界大戦の前哨戦としての様相を呈しました。その後スペインは、フランコ独裁体制が終焉し民主主義体制へ移行した後の 1986 年まで、EC 加盟を待つこととなります。

「先の体制の時代の歴史といかに向き合うか？」という問題は、スペインに限らず日本も含めてどの国でも起こり得る話ですが、フランコ時代の歴史をいかに記憶すべきかという問題は、その後のスペインでも長い間論争を繰り返してきました。そのひとつの帰結が、2007年12月に制定されたスペインの「歴史記憶法」でした。ここではフランコ体制に対する非難を公式に盛り込み、公共の場からフランコ体制の象徴物を撤去し、また内戦や歴史の記憶に関する資料の収集や公開を定めるなど、歴史認識問題に大きく踏み込んだものとなりました。他方でこの法律は、左右に分断されたスペインの諸派政党のみならず、フランコ時代に抑圧されてきたカタルーニャ地域主義政党をも巻き込んだ末に成立した妥協の産物でもありました。

内戦や抑圧という負の記憶を内側に抱えながらも、それにどのように向き合い歴史を紡いでゆくかという姿は、日本に生きる我々にとっても大きな示唆を与えているように思われます。

(林 大輔・EUSI メールマガジン編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp
